



牛乳が消える？

次々廃業に追い込まれる酪農家

酪農家の悲鳴

今、半田市でも阿久比町でも酪農家が廃業に追い込まれています。

雪印のような大企業の不祥事から消費者の牛乳離れが進んでいますが最大の理由は乳製品の輸入が大きく影響し国内の消費を上回っているからです。

牛乳は保管が困難ですが余った牛乳は乳製品にして在庫を増やすことを輸入がそれを妨げています。

自給率向上が強く求められます。

もう一つの理由は飼料の高騰です。トウモロコシのバイオ燃料への転換、原油値上げによる輸入コストの高騰、気候温暖化による作物の減収など要因はありますが政府がその対策を取っていないことが大きく影響しています。

又、乳メーカーの生牛乳と乳製品に変わる牛乳との大きな引取り価格の差も指摘されます。

政府は大経営の酪農家だけに目を向けるのではなく、小規模経営の酪農家に手厚い保護政策を取る必要があります。

学校給食で牛乳が消える？

子供の健康に欠かせない牛乳を守り育てるために政府は飼料の海外依存を止め、乳製品の輸入を制限し、国内での生産、消費対策を見直す必要があります。

パソコン学習会 初心者がお互いに勉強する会です

定期学習日 毎週金曜日
午前10～12時
第2,4水曜日 1.30～4時



- デジカメ写真をCDやDVDに編集し保管して見ましょう
- 初心者はワードやエクセルを勉強しましょう

入会金500円が必要です(資料込み)
会費は2回500円です
資料をお渡しします

連絡先 後援会事務局 24-0742 平田まで (予約してください)

安心・安全な食卓

日本共産党の
農業再生プラン



暴動が起きるほど食料問題は深刻？

自給率50%を目指す

わが国の食料自給率は39%にまで低下してしまいました。

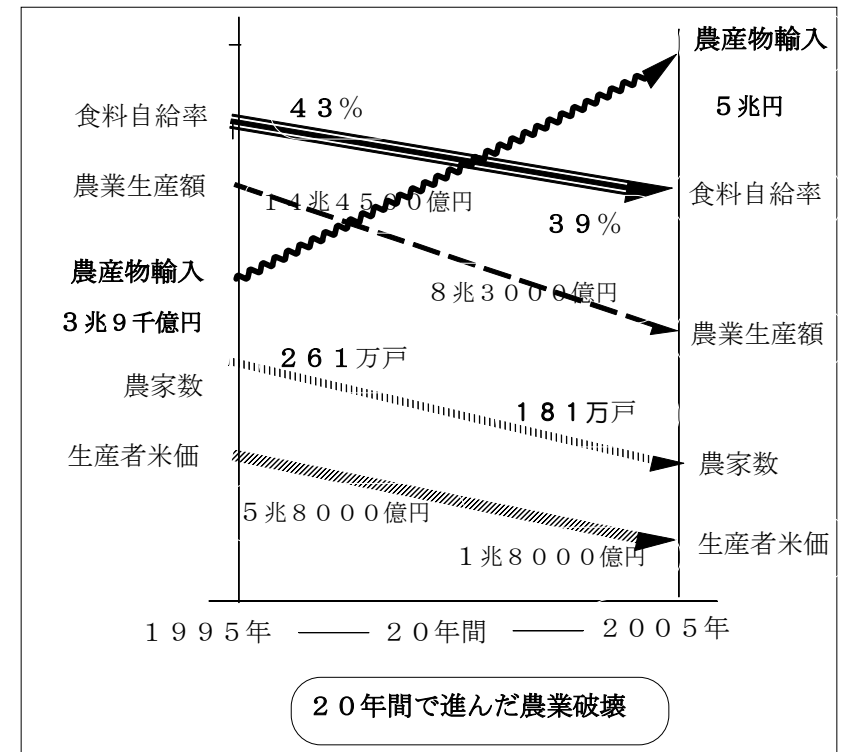
(日本を除く先進11カ国の平均は103パーセント)

右図のように、自給率、農業生産額、農家数、生産者米価は軒並み下がり、今や、農家の担い手は70歳以上が45%を占めているなど農業の破壊が進みました。

反対に農産物輸入は激増しています。

トウモロコシ、大豆、小麦など全面的に輸入に頼っているわが国は、輸入価格高騰が食卓の家計を直撃しているのです。

食料自給率向上を真剣に



《提言1》

持続可能な経営を保障する価格政策の確立

農業は天候に大きく影響されます、価格が変動し下落すれば生産意欲もなくなります。

政府が価格を保証し、政府の価格暴落は“農家が米を作りすぎる”からと言う考えを捨てることです。

《提言3》

食料主権を保障する貿易ルールの確立

いつでも安く外国から手に入る時代ではなくなりました。自国の農業を守る適正な関税や鳥インフルエンザ、毒入りギョーザ事件のような有害物質に対する共同のルール作りが大事です。

《提言2》

担い手対策を充実する

日本の農業は家族経営が主流です、耕作機械の共同購入や地域組織に大きな支援を行うこと。

財界が推し進めている株式会社化に反対します、農業を利益追求の場にしてはなりません。

《提言4》

食の安全確保と地域農業の再生を

“安全な国産農産物を”の国民の要求に答え、地産地消、直売所の開設、産直の拡大、など環境保全型の農業の振興、日本の食文化の継承・発展を生産者と消費者が共同して進めます。